

【講座名】	講座1「支援を必要とする子どもも参加できるユニバーサルデザインの授業の在り方」	
【講師】	滋賀県草津市立南笠東小学校 教諭 岩本 弘子	
	<p>1 どの子どもも自分の力を発揮できる授業</p> <p>(1) 交流及び共同学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みんなの支援体制 ○ 安心できる学習環境 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 150px;"> いつ何をするのかという見通し 個別の支援を含んだ一斉指導 </div> <p>(2) 教科の支援体制（両担任の連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三つ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級 全体への支援 ・通常の学級 個別の支援 ・特別支援学級 個別の支援 ○ 三つの学びあいの場 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとかかわり合う場 ・自分の力を発揮できる場 ・友だちのよさに気づき認め合える場 <p>2 4年生担任・特別支援教育コーディネーターとしての実践</p> <p>(1) 特別支援学校・関係機関との連携</p> <p>(2) 校内での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な支援を要する児童の共通理解 ○ 巡回相談 ○ 個別指導 ○ 個別の指導計画作成 ○ 教科の支援体制 <p>ポイントは、特別支援教育の手法を取り入れた指導を児童の学びに生かしていくことである。</p> <p>3 滋賀県総合教育センター研究員としての実践</p> <p>(1) 「特別支援教育の知恵袋」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のわかり方 ○ 特別支援教育を校内に広めるための工夫 ○ 特別支援教育の手法を示す <p>(2) 「特別支援教育の知恵袋」の活用</p> <p>【ステップ1】 通常の学級に在籍する生徒に必要な支援を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校適応感を理解する調査 ・学習に対する苦手意識を理解する調査 <p>【ステップ2】 特別支援教育の手法を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会の実施 ・特別支援教育強化月間 ・通信を発行 <p>【ステップ3】 特別支援教育の手法を取り入れた授業を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒への適切な支援 ・個々の学び方に配慮 <p>4 まとめ</p> <p>特別支援教育の手法を理解し、授業の進め方の工夫をすることで、特別な支援を要する生徒の分かり方・支援方法が深化し、結果すべての生徒にとって分かりやすい授業になる。つまり、特別支援教育の手法を取り入れることは、生徒の学力向上につながる。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>Q1（宮崎市立広瀬小学校 西脇 信仁先生より）</p> <p>アセスメントシートは、クラス全体の傾向が分かるだけでなく、個別に対応可能なシートなのか。</p> <p>A1 個人の大まかな状況を把握できる。</p> <p>6 感想</p> <p>ユニバーサルデザインの具体的な指導事例を数多く紹介していただき、大変参考になった。</p>	
講座の様子		

